

JIBSN 与那国セミナーに参加しました。

NPO 法人国境地域研究センター理事 高田喜博

## 2 度目の与那国島へ

境界地域研究ネットワーク JAPAN (JIBSN) の与那国セミナーに参加するため、2024 年 10 月 11 日から 3 日間、日本最西端の与那国島を訪ねた。2011 年 5 月の JIBSN 設立プレ企画・与那国／台湾セミナー以来、2 度目の訪問であった。

ほとんどの参加者は、午後ないし夕方のフライトで与那国へ入るのだが、少しでも長く与那国の空気を吸いたくて、午前の便で新石垣空港から与那国空港へ移動した。プロペラ機でわずか 30 分間のフライトである。

期せずして、準備のために先乗りする岩下明裕教授および事務局スタッフと一緒にになった。おかげで与那国町役場の送迎に便乗して、宿まで移動することができた。

## 民宿「ばあ〜りゃ」（“ばあーりゃ”とは“お疲れさま”の意味）

今回のセミナーには島外から添乗員を含めて 42 人が参加する。前回 2011 年は大人数を収容できるリゾートホテルがあったが、コロナ禍の最中に閉鎖されてしまった。今回は、数人以下の少人数で分宿することになり、事務局の苦労は大変だったと思う。

私に割り当てられた民宿「ばあーりゃ」には、離れを含めて 4 部屋（6 ベッド）があり、シャワーやトイレは共用で、JIBSN 仲間 4 名による貸切状態だった。宿のオーナーは別に住んでおり、チェックインが済んだら「あとは勝手にどうぞ」（朝食の材料は用意されていた）というシステムで、実際にその後は宿の関係者に会うことはなかった。

## 島内散策

宿に荷物を置くと、すぐに島内最大の集落である祖納（そない）の散策にでかけた。集落の西のナンタ浜から東の与那国小学校と中学校まで歩いても 15 分程度の規模である。

まず、集落の西にあるナンタ浜と祖納港を目指す。なによりもコバルトブルーの美しい海を見たかったからだ。漁港は西側の第 2 の集落である久部良（くぶら）にあり、祖納の港にはほとんど船はなく、人もいなかった。美しく、静かで、何もない、ゆったりとした贅沢な時間を楽しむことができた。



### 西崎と久部良バリ

翌 12 日の午前中は、役場関係者の案内で、貸切バスで島内ボーダーツアーにかけた。まず日本最西端の西崎（いりざき）で「日本国最西端之地」の碑を見た。条件が良ければ年に何回かは約 111km 離れた台湾を望むことができるそうだ。ちなみに、ここから一番近いコンビニは、約 120km 離れた石垣島ではなくて台湾花蓮市のコンビニだそうだ。

次に「久部良バリ」という人減らし伝説の地に案内された。1609 年より薩摩が琉球王国を支配すると、薩摩と琉球王国との二重搾取体制となり、また、役人の中間搾取もあり、与那国を含む八重山には重税が課されるようになった。さらに 1637 年からは、石高に割り当てられた貢納（納税）が頭数に割り当てられる、いわゆる「人头税」が開始された。生産性の有無に関わらず頭割で過酷な税が課される制度の下、生産性のない者は淘汰された。例えば、「久部良バリ」と呼ばれる幅 3~5m ほどの岩の割れ目に妊婦が集められ、これを飛び越えられなかった妊婦は崖下に落ち、飛び越えても流産する者も多く、やがて与那国の人口は激減したという。この人头税は、改正されながらも明治の地租改正まで続いた。



## 崎元酒造と波声

与那国にはアルコール度数 60 度の「花酒」と呼ばれる泡盛がある。その蒸留所の一つである崎元酒造に案内され、花酒の作り方や製品ラインナップの説明を聞くことができた。

飲みやすくするため水で割って度数を調整した製品もあるが、その中に北海道の礼文町の清水で割った「波声（はごえ）」がある。離島の自治体としては北端の礼文町と西端の与那国町の交流は 1990 年の小学校の交流から始まる。それを機縁としつつ、JIBSN も協力して、2019 年に両町は「友好交流協定」を締結した。それを記念して作られたのが波声（波声とはニシン漁の際の音頭取りのこと）である。お土産に飲み比べセットを購入した。

## 自衛隊基地

2016 年に設置された陸上自衛隊与那国沿岸監視隊の基地を訪問して副隊長のお話を聞くことができた。人口約 1600 人のうち約 200 人が自衛隊関係者であり、本来業務以外でも地域の行事に積極的に参加するなど、さまざまな意味で島の活性化に協力している。

しかし、沖縄地上戦という歴史を持つ地域であり、与那国も英米軍の爆撃や機銃掃射、あるいは、戦争マラリア（避難先で多くの住民がマラリアに罹患した）による犠牲者を出している。当初は住民の意見は二分して対立した。2015 年の住民投票を経て、ようやく自衛隊が誘致された。そうした経緯もあり、自衛隊も役場も住民や地域に対して、たいへん気を遣っているのがよく分かった。

また、JIBSN 仲間の境界自治体には、ほぼ例外なく自衛隊が存在する。彼らにとっても興味深い話だったようだ。思いのほか質問が出て予定時間をオーバーしてしまった。



## セミナーと交流会

この日の午後は、与那国町複合型公共施設において JIBSN セミナー「境界地域のなかに光をみる」が開催され、JIBSN メンバーである 9 つの境界自治体が報告をなし、参加者全員でディスカッションをした。

夜は、嶋中公民館において懇親会が開かれた。290 年の歴史のある「棒おどり」や「ミティ唄」（歓迎の踊り）などの舞踊を観ながら、「ヤギ汁」などの郷土料理や地酒（泡盛）を楽しみながら、なかなか会えない仲間たちや新しい友人たちと楽しく交流することができた。準備から最後まで全面的に尽力いただいた役場や住民の皆さまには感謝しかない。



## 最終日の与那国ボーダーツアー

13 日も役場の方々の案内で、帰りの飛行機までの時間、与那国ボーダーツアーが実施された。まず、西の久部良漁港から船に乗って島を一周した。船から謎の「海底地形」や「立神岩」「軍艦岩」などを見て、島の地形や大きさを実感することができた。

再上陸して 3 番目の集落である比川へ行き、テレビドラマ「Dr.コトー」のオープンセットに立ち寄り、共同売店で買い物をして、八重山そばも美味しくいただいた。

祖納に戻って、台湾と与那国の交流に関する展示や解説がある「DiDi 与那国交流館」、与那国に生息する世界最大の蛾「ヨナグニサン」などの与那国の自然について知ることができる「アヤミハビル館」、女酋長サンアイイソバが横たわっていたという岩山「ティンダハナタ」などを案内してもらい、与那国の歴史と現在、文化と自然を学ぶことができた。

与那国空港で午後の便に乗る仲間たちを見送った。それから夕方の方まで“まったり”とオリオンビールを飲んで、ゆっくりと与那国を離れた。

（註：1 枚目の写真を除き、斉藤マサヨシさん提供の写真を使用した）